

## 第8回CSR基礎講座

「コンプライアンス経営～CSRの土台を固める！」

8月8日(火)、第8回CSR基礎講座「コンプライアンス経営～CSRの土台を固める！」が開催されました。

最近、CSRへの積極的な企業が相次いで不祥事を起こしています。環境問題や社会的課題への熱心な対応をみせる一方で、コンプライアンスに対する意識が弱まっていたのではないのでしょうか。こうした中、コンプライアンスの重要性が改めて認識されています。CSR活動をより有効なものにするためにも、その土台となるコンプライアンス経営の徹底が不可欠であると考えられます。

基調講演では、麗澤大学外国語学部の梅田徹教授（麗澤大学企業倫理研究センター副センター長）より、ご自身がアドバイザーを勤めるライブドアの事例を中心に、コンプライアンス経営の考え方についてお話をいただきました。梅田教授は、コンプライアンスを、法令違反のない状態であるとともに、倫理綱領・行動基準が組織内において遵守されている状態であると指摘されました。また、コンプライアンス経営を組織全体に浸透させるためには、規範(ルール)の遵守を個々人に徹底させることと、組織全体で倫理的な価値を共有することが重要であると述べられました。それはつまり、「ルールを守りなさい」という上からの管理だけではなく、ルールを守るための価値を組織全体で共有することが極めて重要であるということを指摘されました。価値の共有は、梅田教授が指摘する広義のコンプライアンス(倫理綱領・行動基準の遵守)の遵守を図る上で不可欠なものになります。

事例発表では、東京電力株式会社の小野芳幹氏（総務部企業倫理グループマネージャー）より、企業倫理の定着に向けた同社の取り組みについてお話をいただきました。東京電力の企業倫理定着活動は、同社の行動基準の大枠を構成する3つの要素を中心におこなわれています。1つ目はルールの遵守、2つ目は誠実な行動です。この2つを徹底するために、東京電力では、管理職や現場責任者が率先してルールの遵守と誠実な行動を心がけています。行動基準が従業員に配布されても、現場で活用されていなければ意味がないからです。3つ目は、オープンなコミュニケーションです。組織全体が倫理的であるためには、組織メンバーの倫理観を組織の倫理につなげることが不可欠であるとの認識に基づき、東京電力では、何でも言える職場づくりに力を入れています。原発事故の不祥事以降の東京電力の先駆的なコンプライアンスへの取り組みは、本セミナーに参加した多くの企業関係者にとって有益なものになったと思います。